

## 台風第21号の接近に備える営農技術対策

平成29年10月20日  
北海道農政部

非常に強い台風第21号は、フィリピンの東にあって、発達しながら北上を続け、23日には東日本にかなり接近し上陸するおそれがあります。その後、日本列島に沿って北上することが予想されており、23日から24日にかけて北海道に近づくおそれがあります。

今後の台風の進路によっては、北海道でも大雨や強風による農業用施設等への影響が懸念されます。また、北海道に寒気が流入し、大雪となることも想定されますので、随時発表される札幌管区気象台の気象情報に十分注意し、次の事項の徹底に努めてください。

札幌管区気象台ホームページ <http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>

### 台風接近に備える注意事項

- 1 最新の気象情報を十分に確認し、早めの準備を行う。
- 2 ビニールハウス、農舎、および畜舎等の施設各部の点検、補修を行う。
- 3 人命第一のため、風雨・雪が強くなってからは見回りをしない。

#### 第1 大雨対策

- 1 風雨が強くなってからのほ場や施設等の見回りは行わない。やむを得ない場合でも、夜間や単独での行動はしない。
- 2 低地や排水不良地など滞水が心配される畑地では、明渠や排水溝へ排水できるよう溝切りを行う。
- 3 ビニールハウス・農舎・畜舎・サイロ・飼料庫等に水が入り込むおそれがある場合は、施設の補修のほか、施設周辺に排水溝を掘り、土のうを積むなどにより施設への浸水を防ぐ。
- 4 ビニールハウス周辺の排水溝が浅くなっている場合は、ハウスのすき床面より低く掘り下げるなどの排水対策を講じる。また、ボイラーや移動できる機械類は可能な限り高所に移し、浸水を避ける。
- 5 浸水の被害が想定される貯蔵施設は、収穫物を浸水の危険がない場所に移動する。
- 6 堆肥場や尿溜に雨水が流入しないよう土盛りなどの対策を行うほか、れき汁などの河川等への流出を防ぐ。

#### 第2 ビニールハウス等農業施設の暴風雪対策

- 1 農舎の屋根や壁の点検・補修を行い、風雨による被害を防止する。
- 2 ビニールやハウスバンド等施設各部の損傷・ゆるみなどを点検し、必要に応じて補修する。

栽培を終えたハウスは、ビニール等を外しておく。

- 3 既設の防風網は点検整備を十分に行い、突風が起きやすいハウス周辺の狭さく部には応急的に防風網を設置しておく。
- 4 ハウスバンドを固定するアンカー杭が浮き上がっていないか確かめ、修正しておく。
- 5 ハウスの筋かいは、緩んでいるところだけを締め付けると周囲の筋かいが緩むので、ハウス全体の筋かいは均等に締め付けられるように調節する。また、ハウス中央部に支柱を設置し暴風雨に対するハウス強度を高める。
- 6 ハウスの出入り口、天窗、側窓、換気扇及び側面のフィルム巻上げ部などの開口部が、きちんと締まるかチェックしておく。
- 7 ビニールフィルムが強く緊張するように、ハウスバンドをきつく締めておく。バンドレスの場合は、フィルムを均等に緊張することが難しく、強風でフィルムがバタつくフィルムが破れやすくなるので、妻側端部及び適当な中間部に防風ネットを張り、バタつかないようにする。
- 8 被覆資材が破れ、風がハウス内に吹き込むとハウス内の圧力が大きくなり、ハウス全体が大きな被害を受ける。飛来物によるハウスの破損がないよう、ハウス周辺の飛散しやすいものを片付けておく。
- 9 風が極めて強くなることが予想される場合は、屋根ビニールを外すなどして風を逃し、ハウスの倒壊を防ぐ。

### 第3 露地野菜等の被害防止

- 1 ながいもの春掘りで滞水が心配されるほ場では、枕地の溝切りを行い、トレンチャー溝への雨水流入を防ぐ。

### 第4 果樹の暴風対策

- 1 収穫適期を迎えた果実は、速やかに収穫する。
- 2 各果樹の幼木・若木は、支柱にしっかり固定し倒伏を防ぐ。
- 3 収穫を終了したハウスは、速やかに被覆資材を除去する。

### 第5 畜舎施設等の暴風雨対策

- 1 畜産施設等は、損傷、倒壊等を避けるため、必要に応じて補修・補強を行う。
- 2 大雨による畜産施設への浸水のおそれがある場合は、明きよの施工等により排水に努める。
- 3 家畜への被害が生じるおそれがある場合は、事前に避難場所を確認し、状況に応じてあらかじめ家畜を避難させる等の適切な処置を行う。

### 第6 停電・断水対策

- 1 常備している懐中電灯の電池残量や、畜舎・施設などの小道具の置き場所を全員が確認し、また、畜舎内の清掃・整頓を徹底し、夜間停電での突発的な人身事故に備える。

特に、畜舎では発電機の手配や自家発電機の燃料を確認し、試運転を行う。発電能力と使用する施設・機械の必要電力の確認、給水タンクの手配をしておく。

発電装置は必要電力に対し、十分に余裕を持った機材を用いる。発電能力に合わせ、搾乳を

最優先事項とし、通電する優先順位を決める。

## 2 酪農施設で停電した場合

- (1) 停電で使用不能となった設備（水槽揚水ポンプ、サイロのアンローダー、電気牧柵、自動給餌機、電気温水器、照明器具、自動哺乳装置）を確認し、稼働中に停電した機器や、通電後に再稼働の確認が必要な機器については、ブレーカーを落とし、再稼働の優先順位を確認しやすいマークをつける。
- (2) 停電で搾乳が不可能な場合、牛舎への出入りは必要最小限にし、牛に搾乳刺激を与えない。また、給水制限すると同時に濃厚飼料の給与は控える。  
※ 前回搾乳から16時間以内の搾乳中止は、乳量や乳質に特に問題は生じない。  
※ 手搾りが可能な酪農家は、泌乳前期牛の搾乳を優先する。
- (3) 発電装置が手配できる場合は、それらを利用して搾乳・冷却を行う。
- (4) 発電機が安定した状態で設置されていること、発電機の周囲に可燃物がないこと、漏電のおそれがないことを確認してから、発電を開始する。発電機や電子機器の基盤に急激な負荷を与えないよう、発電機の回転数が安定していることを確認しながら、優先順位に従い、一つずつ機械のスイッチを入れる。

## 3 停電解消後は、次を参考に対策に努める。

- (1) 通電後は優先順位に従ってブレーカーを戻し、ミルクカーなど電気を動力源とする機械が正常に作動するか速やかに点検する。
  - (2) 通電忘れがないか、再度確認する。
  - (3) 機器が正常に稼働することを確認できたら、直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物（通称ブツ）の有無を確認し、罹患している場合は治療する。
  - (4) 牛の体調を確認して、異常牛は速やかに獣医師の診察を受ける。
- ## 4 停電中にバルククーラーで冷却中であった生乳は、速やかに集乳できるよう体制を整える。
- なお、出荷の際には、細菌数の検査を実施する。